【月曜朝会の話より２月②：H280208】

「いのちをつなぐ（冬を越す、いのちのリレー）」

「今日は立春です。まだ寒いけれど春が近づいています。みんな元気に１年間のまとめをしましょう・・・・・。

それでは、あさのあいさつをしましょう。お早うございます。」（おはようございます。）

ちょうど、今の６年生のお話にもあったように、立春。もう春になりますよ・・。という日。だも、春とは名前ばかりでまだまだ、今が一番の冬の寒さかもしれません。もうすぐ春という今、最も寒さのさかいめ。ですから、あたりのようすも随分と夏や秋とは違っています。小さな生き物は見かけなくなったし、校庭の木々は葉を落としまるで枯れてしまったように見えます。そのせいで、これまで気がつかなかった、木の枝の高いところのようすがよく見えますね。この、気も葉っぱは皆落ちてしまい、枝も黒々として枯れてしまったように見えます。冬の間は、生き物たち、動物も、草や木もいなくなってしまう、枯れて絶えてしまう。一体どうなっているのでしょうか。

そこで、今日は「冬越し」「いのちをつなぐ」という話をします。

今、春、夏、秋、と過ぎて冬がやってきました。冬になった証拠はどんなところで見つけられるでしょうか。これまでに比べて、あたりの様子はどんなふうに変わってきたでしょう。

私は、最近こんなことがあって、「冬だなぁ」と、しみじみ思いました。

○ いつも自分の家から近くの駅まで自転車で通っています。暗くなると自動的にライトのつく自転車を使っているのですが、最近は毎日、朝からあたり前にライトがつきます。どうしてでしょう。故障ではありません。

○ 今までと同じ時間なのにまだ真っ暗で、今朝は半分欠けた月や星がまだ明るく光って見えています。

○ あたりはまだ真っ暗で、駅だけがこうこうと明るくて、なんだか怖いようです。

○ 自動車の屋根やボンネットがすっかり凍りついてすぐには乗れないし、ドアもうまく開きません。まるで冷蔵庫に入れておいたようです。２，３日前には、自転所のカギが凍りついて動かなくなってしまい、鍵がかけられないので、近くの自動販売機で、あったかいお茶を買って、少し欠けて、ようやく動かせました。

○ 川べりの道を自転車で通っているのですが、この間までは草が生い茂っていて川の流れが見えませんでした。ところが、今日は河の流れがよく見えて水面に湯気みたいなものが上がっていました。よく見えるのはなんでだと思いますか。それから、お湯が流れているわけではないのに、川の流れから、湯気みたいなものが見えるのは、寒いからかなあ。

○ 駅のホームで電車を待っていると、おじさんもおばさんも、お兄さんもお姉さんもついこの間までの夏の服装ではなくなって、むくむくと洋服で太ってしまったようです。混んでくると身動きできないくらいにぎゅうぎゅうです。いつもは楽々６人座れるところに今は５人座るとぎゅうぎゅうで動けません。みんなが太ってしまったのでしょうか。そんなわけないですよね。

こんなふうに、冬になり、寒くなってきて生き物も見かけなくなりました。小さな生き物は、全部いなくなってしまったのでしょうか。クワガタも、カブトムシも、モンシロチョウも、アゲハも、テントウ虫も、みんなみんないなくなってしまったのでしょうか。

わたしたち人間は、服をたくさん着込んだり、ストーブをつけたりして冬を乗りこえて来年にはまた春を迎えます。なんとか寒い冬を乗り越えて次の年も元気に生き続けます。

でも、他の生き物たちはどうしているのでしょう。死んでしまったのでしょうか。

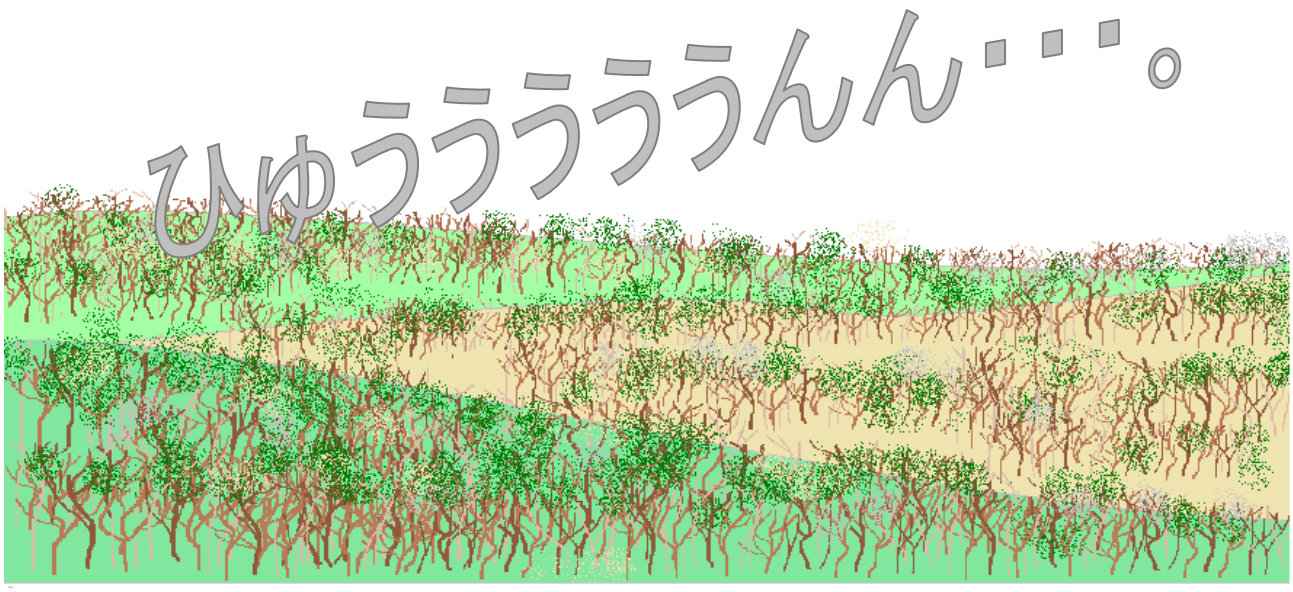
もし、死んでしまったのならモンシロチョウも、アゲハも、クワガタ虫ももう来年はいなくなってしまいますよね。この世界からそういう小さな生き物がみんないなくなってしまうことになります。

でも、これまでも、これからもきっと春にはアゲハも飛んでいるでしょうし、モンシロチョウもいるはずです。

ですから、寒さを避けて、きっとどっかにかくれて「冬越し」をしているのでしょう。

モンシロチョウも、アゲハチョウもそのほかの虫も、みんな校長先生が子どもの頃から、いやいや、もっともっと大昔からいますよね。一匹の蝶や虫は、1 年しか生きなくても、代々その子ども達にいのちをつないでいるのです。いのちのリレーだね。そう、命をつないでいるのですよ。

桃五の皆さん、いろいろ生き物が冬の寒さを乗り越えて命をつなぐためにいろいろ工夫して備えている様子を、ちょっと探してみませんか。

校庭の桜も、ほかの木々も、よぉく見ると枝の先の方にたくさんの目が少しずつ大きくなってきています。春の準備をしているのです。

生き物たちにとっては、寒い冬に備えるということは命がけです。皆さんの周り、桃五の校庭でも春の準備、命をつなぐ工夫をいろいろ見つけてみませんか・・・・・・・。